



総務省

MIC Ministry of Internal Affairs
and Communications

令和4年度

Inno
異能 Innovation
Inno
異能 Innovation プログラムについて

令和4年7月
国際戦略局 技術政策課

事業概要

- ICT研究開発課題を大学・国立研究開発法人・企業・地方公共団体等の研究機関などから広く公募し、外部有識者による選考評価の上、研究を委託する競争的研究費。
- ポストコロナの未来社会を見据え、ICT基礎・基盤研究支援、ICT若手研究者育成、ICT基礎・基盤研究の社会展開促進、戦略的な国際標準獲得、などにより、ICT研究開発を推進。

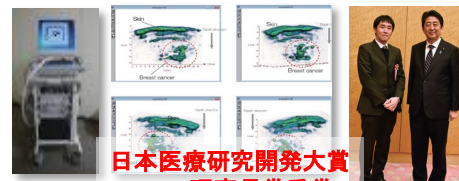


効果・成果

ICTの基盤技術開発、戦略的な国際標準の獲得による国際競争における優位性の確保
など、ポストコロナに対応した「新たな日常」を支える技術を創出。

これまでの成果例

リアルタイムマイクロ波マンモグラフィにより痛みのない検査法を実現



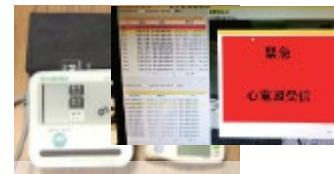
日本医療研究開発大賞
AMED理事長賞受賞

公共交通のない過疎地など全国各地で展開可能な完全自動配車サービスプラットフォーム



平成28年起業、8社と事業展開中

在宅医療のためのクラウド型地域連携医療システム



MCPC award 2016グランプリ
総務大臣賞受賞

光格子時計により一般相対性理論を実証



秒の再定義候補

資金の流れ



期待される効果

ポストコロナの未来社会を見据えた、世界をリードするICT研究成果の創出

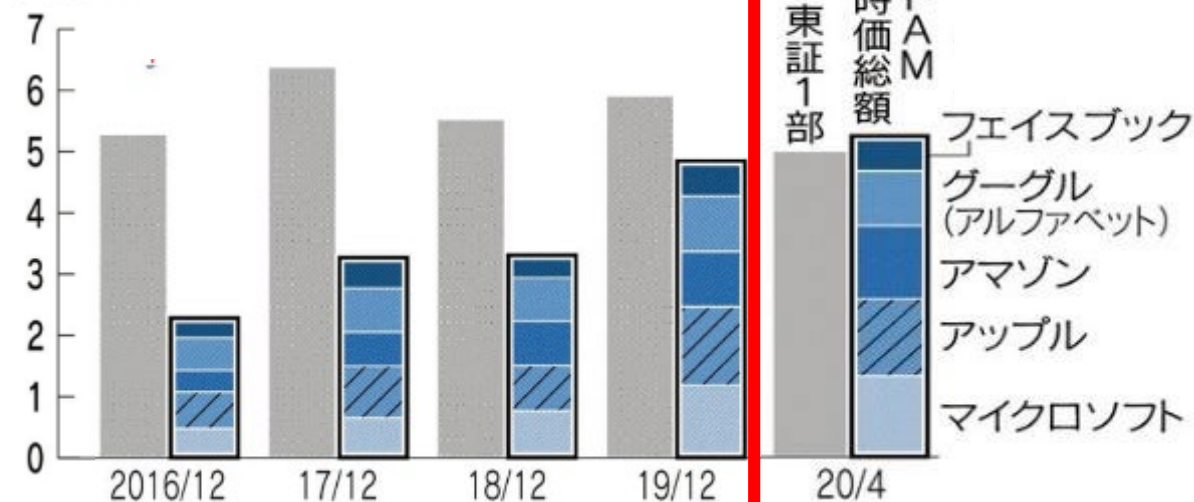
異能（INNO）vationプログラムの推進

プログラムの背景①

米国ICT企業GAFAM(Google, Amazon, Facebook, Apple, Microsoft)の時価総額は約560兆円。東京証券取引所1部上場企業約2170社の合計550兆円を上回る (R2)。

ICTの破壊的イノベーションは、全世界に波及するため、極めて大きな経済効果で国に大きな富をもたらしますが、GAFAMのような企業でも、世界的な大企業になるまで約20年を要しています。

兆ドル



世界的大企業になるまで
約20年

企業名	設立年	売上高 (R2)
Facebook	2004年2月 (17年前)	約9兆円
Google	1998年9月 (22年前)	約20兆円
Amazon	1994年7月 (26年前)	約42兆円
Apple	1976年4月 (35年前)	約30兆円
Microsoft	1975年4月 (36年前)	約15兆円

プログラムの背景②

我が国には、協調性がある・信頼性を重視し慎重に推進するなどの考えと、「出る杭は打たれる」「失敗を恐れる」などの文化が存在し、破壊的ICTイノベーションが生まれにくい状況。

情報通信審議会

イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方 最終答申 (H26.6.27)

イノベーション創出に向けた現状の課題と解決の方向性

- わが国が安定的にさらなる経済成長を遂げるため、わが国発の破壊的イノベーションの創出を実現するための方策を調査・検討。
- 「課題」については改善の兆しはあるものの、解決にはまだ至らない状況。

現状の課題

人材の不足 <ul style="list-style-type: none"> - <u>起業を目指す者やキャピタリストの不足・支援の不足</u> - 知財等の専門家が研究者の周りにいない 	心理的障壁 <ul style="list-style-type: none"> - 失敗が許されない文化 - 高い技術を持ちながらも、競争に立ち向かう<u>自信の喪失</u> 	ニーズ変化への対応遅れ <ul style="list-style-type: none"> - 潜在的なニーズを掘り当てる取組の欠如 - 製品中心からサービス中心への変化への対応遅れ
自前主義へのこだわり <ul style="list-style-type: none"> - 各社が技術を網羅的に保持 - M&Aなどによる他社技術の獲得などの動きが弱い 	社会構造の障壁 <ul style="list-style-type: none"> - ベンチャーの技術を大企業が活かす土壌が不足 - 合議制などの意思決定プロセスがイノベーションを阻害 	知財戦略の遅れ <ul style="list-style-type: none"> - <u>知財を経営資源として捉える意識が弱い</u>

解決の方向性

新技術・新サービスへの挑戦の支援 <ul style="list-style-type: none"> - 起業家・キャピタリストの育成 - <u>新サービスへ挑戦する独創的な人材発掘</u> - 成功を生むために失敗を教訓化、共有 - <u>知財や広報専門家による支援体制</u> 	ニーズ発の視点 <ul style="list-style-type: none"> - 事業コンセプトと競争優位性を明確にするビジネスモデル検討の促進 - 先取りしたニーズを研究開発へ取り込み、その成果の利活用まで見るアウトカムによる評価の導入
自前主義からの脱却・エコシステムの形成 <ul style="list-style-type: none"> - 国家プロジェクトにおけるオープンイノベーション(ベンチャーの活用など)による取組の促進 - <u>自分が作った技術等を第三者に活用してもらう仕組み</u> 	イノベーション創出環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> - 事業化までに必要な資金を提供するリスクマネーの確保 - <u>飛び抜けて優れた研究開発環境の整備、開放</u> - 投資の阻害となり得る規制の緩和の検討
基盤技術としてのICTへの取組	

出る杭を認め、失敗を恐れずに挑戦する雰囲気や国が率先して醸成していくことが重要。

異能(INNO)vationプログラムの概要



ICT分野において、人工知能には予想もつかないような破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな課題への挑戦とその地球展開を支援。

平成26年度にスタートし、今年で9年目！

総務省

委託

我が国発の破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気醸成

挑戦後の評価を経た卒業生（異能β）

受託機関

公募

挑戦

卒業

- ・応募要件：**地球上において個別連絡先が存在する方（年齢・国籍・居住地不問）、自薦・他薦**
- ・対応言語：日本語・英語・タイ語・インドネシア語の公募Web
- ・評価：SVの経験に基づく直感により評価（破壊的イノベーションを起こすような課題は、既存の価値や評価基準で測ることができないため）

- ・支援額：300万円（上限）
- ・期間：1年間（上限）
- ・挑戦に専念できる環境を整備

異能β

卒業生

（尖った特異な人材）

破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気醸成する裾野の拡大

官・民・地域・グローバル連携による異能vationネットワーク

地域とグローバルのネットワーク拠点

ジェネレーションアワード
（協力協賛企業による表彰）

協力協賛企業グランドチャレンジ



異能 (INNO) vationプログラム 公募内容

課題への挑戦を支援

破壊的な挑戦 部門

ICT分野において破壊的価値を創造する、奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦を支援します。

新型コロナウイルスの世界的な蔓延による新たな生活に希望をもたらす文明の転換点となるような、そして社会や産業における大変革をもたらすような課題に対し、失敗を恐れずに果敢に挑戦を行うような提案を募集します。

挑戦期間：上限1年間（早い卒業が可能です）

支援額：上限300万円

- 卒業後、異能β（ベータ）と認定されると地球規模の展開に対する支援が受けられます。

協力協賛企業があなたを表彰

ジェネレーションアワード 部門

ICT分野における、

- ちょっとした、けれども誰も思いついたことのないような面白いアイデア
- 自分でも一番良い使い方が分からないけれど、こだわりの尖った技術
- 自ら発見した実現したい課題

などを表彰します。

あなたの日ごろのちょっとしたアイデアも、こだわりの技術も、思いもよらないような使い方をしてくれる人や企業が出現することにより、世界を変える一歩を歩むかもしれません。

- 協力協賛企業各社より、分野賞副賞（20万円）及び企業特別賞（未定）などを提供
- 表彰にノミネートされた提案は協力協賛企業と協力して実装や実現を目指す機会を設けます！

奇想天外でアンビシャスな 「人・発想・技術」を探しています！

破壊的な挑戦部門

ジェネレーション
アワード部門

【応募要件】

年齢制限なし。地球上に置いて個別連絡先が存在する方
(国籍、居住地は不問)。

ご自身で応募する場合：個人またはグループ

推薦をする場合：近くにいる推薦したい人またはグループ

※なお、業務実施機関は被推薦者に対し推薦者の情報開示は行いません。

※破壊的な挑戦部門、ジェネレーションアワード部門の2部門同時応募が可能です。

全ての人・モノがインターネットで繋がる現代において、今までの価値観にとらわれず、様々なICTイノベーションを生み出す

**変な人(異能人)を応援する(探し出す)、
認めるプログラムです。**

- 失敗を恐れず、とりあえずやってみる
- やってみたい事を受け止める
- 失敗をしても次の道筋が
明確になる提案は高評価



応募後に選考を経て、挑戦者となった場合は、最大1年間の期間で、課題へ挑戦していただけます。また、卒業評価を経て、認定されれば異能βとしてその後の展開支援を受けることもできます。

令和4年6月20日（月） 12:00

～

8月22日（月） 18:00

応募は「異能（Inno）vation」プログラム公式サイト内の
応募フォームからご応募ください。

公式サイトURL

<https://www.inno.go.jp/>